



金目川水系流域 ネットワーク  
世話人会

# せせらぎ通信

## 土屋小学校 総合学習のまとめ

土屋小学校 石井 成子

平成26年度、5年生は総合的な学習の時間に、地域の自然について学習しました。その中で、金目川水系流域ネットワークの方々に、金目川や座禅川にいる生き物のこと、学校周辺の昔と今の様子の違いや昔の農業などについて教えていただきました。

また、身近な話題だけではなく、地震が多い日本の地形の様子などもお話いただき、子供たちは興味をもって学習することができました。

学習のまとめとして、お礼の気持ちを込めてお世話になった方々へ「感謝の会」を開きました。金目川水系流域ネットワークの先生方にも来ていただき、これまでの学習をまとめたことを発表しました。

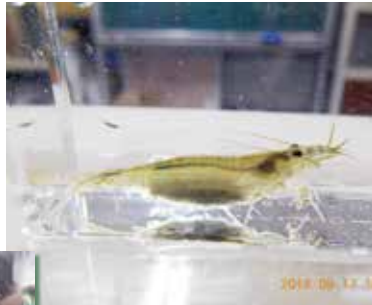
発表テーマは各自で選び決定しました。一部を紹介します。

「金目川の生き物について」

「金目川の今と昔」

「金目川のごみの量について」

「金目川の歴史」などです。



エビはヤマトヌマエビ



座禅川のフナ



「語る！土屋の昔の自然を」

先生方に教えていただいたことをもとに、自分たちでも調べを進める中で子供たちは新たな発見をしていました。

「金目川、座禅川にはこんなにたくさん種類の生き物があるなんて思わなかった」

「金目川のことを前に勉強したけどまだ知らなかったことがあった」

などの感想がありました。自主的に座禅川にいる生き物を捕まえて観察したり、金目川のごみの様子を調査したりする子もいました。

「緊張したけど、調べたことをしっかり発表できてよかった」

「金目川がどうして今のようになったのかわかった」

「金目川のごみはこんなに多いとは思わなかった」

「金目川・座禅川のことは何でも知っていると思ったけどまだ知らないこともあった」

などの感想がありました。

学校周辺の自然は、子どもたちにとって身近な存在で、生き物についてよく知っていましたが、今回の学習を通してより様々な視点から「地域の自然」について学ぶことができました。ご指導いただいた先生方本当にありがとうございました。

# 金目川で初夏に 出会える野鳥

佐藤 道夫

前号に続き、金目川（花水川）で初夏（5月～7月頃）に会うことができる野鳥を紹介してみたい。

夏鳥（夏期に来る海外からの渡り鳥）は、3月頃から金目川に現れ始め、5月頃に旅鳥（春と秋に日本を通過する際に一時滞在）もやってくる。留鳥（ほぼ通年、金目川に暮らしている）も、当然、見ることができる。とはいえ、川面にいる鳥は別として、草むらや藪、木に留まっている鳥は、葉が茂って見つけ難くなるのが玉に瑕である。

夏鳥の代表はツバメで、今年も来てくれたと嬉しい気持ちになる。空中で虫を捕らえ、雛鳥にも飛びながら餌を与えている。黄色い縁取りの眼をしたコチドリが川原をチョコチョコと歩いている。ササゴイ、アマサギ、チュウサギなどのサギ類も川や田んぼに現れる。ササゴイは魚採りの名人で、見ている間に捕まえてしまう。シラサギ類勢揃いの写真は、平塚市内で撮影したもので、コサギ、ダイサギ（共に留鳥）と比較することで、大きさや色の違いがよく分かる。夏の夕暮れにはサギ類がねぐらに集まる光景が見られるようになる。中々、姿を見ることができないオオヨシキリも特徴のある鳴き声で、楽しませてくれる。

旅鳥としては、コムクドリが群れで初夏と秋にやってくる。キア

シシギは、5月の1週間だけ金目川に滞在して、たくさん食べ、また旅立ってゆく。

シギ類でも留鳥のイソシギには比較的会う機会が多いが、お尻をフリフリ歩く姿は微笑ましい。夏の間によく姿を見せるゴイサギは、成鳥と幼鳥とで全く違った羽色をしている。幼鳥は、その模様からホシゴイとも呼ばれ、群でいることも多い。ここに掲載した写真は、筆者が散歩中に撮影したもので稚拙なものも多いが、少しでも楽しんで貰えれば嬉しい限りである。



ツバメ、給餌中



コチドリ



ササゴイ



チュウサギ、ダイサギ、アマサギ、コサギ、ダイサギ



サギ類の帰還



オオヨシキリ



コムクドリ(メス)



キアシシギ



イソシギ



ゴイサギ(幼鳥、成鳥)

## 第6回金目川下流土手 河原清掃に参加して



3月8日(日)の8時45分に集合し、8時50分に作業を開始した。

あいにく海から強風が吹きつける肌寒い曇天下だったが、雨は降らなかった。

前日に聞いた国立環境研究所江守室長の「気候変動(地球温暖化)」も大きな環境問題だが、「ゴミ」もまた身近で大事な環境問題というわけだ。ゴミ問題の方は、さほど深刻に頑張らなくても解決できそうな気はする。しかし、現実には解決できていない。だから清掃は必要なのだ。

今回も、横浜ゴム様、こまたん様、丹沢山塊の自然を考える会様はじめ多くの団体、桜ヶ丘町内会有志、個人等の50名超の参加が得られた。

私が担当したのは、昨年と同じ左岸の花水橋から高麗大橋までだった。

堤防の天端や表法では「ゴミ」は比較的小ないようだ。ウォーキングや犬の散歩をする人たちの目があるからだろうか。拾う奇特な人がいるからかもしれない。



減ってこない、ゴミの山

←まだ、使える自転車が河原に捨ててあった

河川敷に分け入ると状況は一変し、次々と目に飛び込んでくる。とりわけヤナギ林やヨシ原に引掛かっている。砂礫や泥に埋没して採れないものもある。汜濫原に何もなければ、そのまま海に流出してしまっただかも。

目についたものを列挙すると、空き缶、ペットボトル、レジ袋、鉛小袋、たばこの吸い殻、たばこのケース、紙パック等の食品・嗜好品、土のう袋、水糸等の土木工事資材、マルチングシート片、苗ポット、プラ鉢、肥料袋等の農業・園芸用品などだ。

やはり圧倒的に「プラゴミ」が多い。これらのうち土木資材以外は、直接川に投棄されたものとは思えない。

昨年の大型台風で、路上・家庭の庭先・農地・農園等から飛ばされ、川にトラップされ、ヨシ原に堆積した結果ではないか?だとすれば、路上・家庭・農地・農園等で発生させないようにするか、その場に固定することが大事だ。

私の捕った大物は、波板片、雨樋片、車のフロアマット、発泡スチロール片等で小ぶりだったが、集積場には自転車、タイヤ、フルサイズの波板なども見かけた。



力を合わせてゴミ収集をした大切な仲間たち

残念だったのは、高麗大橋の袂に集中的にあった、缶、ペットボトル、たばこ紙マスク、コーヒー紙コップ、ビニール傘等だ。まだ汚損がなく、生々しかった。コンビニ袋に入った状態のものもあることから、通りがかりの橋の上からの度重なる心無い投げ棄てと思われた。

開始から約1時間半で清掃を終えた。獲物はしめて4袋。ヤッケの中はうっすらと汗ばみ、ゴム長の片方も若干水が浸入してしまったものの、達成感はとてもすがすがしかった。

主催された金目川水系流域ネットワークの皆様、有難うございました。

平塚市諏訪町 原博雄

## 土手・河原にはこびる「アレチウリ」

アレチウリは生態等の被害防止のため「特定外来生物」に平成18年2月に指定されました。

アレチウリの原産地は北アメリカです。昭和27年に穀物輸入に混じって静岡県清水港で最初に確認をしています。

- ⑤ 1本のアレチウリは最大5,000個の種をつけ、70%以上が発芽します
- ⑥ 種は翌年に発芽、次の年も発芽をして、又、次も発芽をします。
- ⑦ 種は風に吹かれて遠くまで運ばれ、各所で発芽します。

### アレチウリの特徴

- ① 発芽期間が5月から10月までと長い。
- ② つるは10m近くまでのびます。
- ③ 葉や茎に細かいとげを沢山つけています。
- ④ 成長が早く、太陽の光を独占して、他の植物を枯らしてしまう。



7月下旬 金目川土手のアレチウリ

\*長野県では水辺の環境保全のため、県、市町村、民間団体等が連携して駆除活動を継続的に実施しています。平塚市では一市民が長い年月にわたって駆除活動を継続しています。

柳川 三郎



## 「湘南里川づくり」取組みのご紹介 ～平塚市緑化まつりに出展しました！～



湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。詳細は、ホームページで！

里川づくり

検索

- 日 時 平成二十七年四月二十六日(日)
  - 実施内容 金目川水系の生き物とのふれあい体験(ザリガニ釣り)、資料配布による啓発活動など
- 「湘南里川(やとかわ)ひらひら」とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民主体による清掃、植栽、生き物観察会などの河川等の保全・活用を、流域全体に広げていく取組みです。
- 生き物と触れ合うことで子供に里川への関心を持ってもらい、また、会の活動の啓発を行うため、『第四十二回平塚市緑化まつり』に出展いたしました。
- 当日は、チラシ等の配布による「湘南里川づくり」のPRや水辺の野鳥人気投票のほか、子ども向けに金目川水系の生き物とのふれあい体験としてザリガニ釣りを実施し、多くの家族連れでにぎわいました。

### ●お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター 企画調整課

電話 (0463) 22-2711 (内線2111~3)

ホームページアドレス <http://www.satokawa.com/>